

(様式 17)

学位論文審査の概要

博士の専攻分野の名称 博士 (医 学) 氏 名 寺村 紘一

	主査	准教授	神山	俊哉
審査担当者	副査	教授	平野	聡
	副査	教授	秋田	弘俊
	副査	准教授	本間	明宏

学 位 論 文 題 名

膵頭部癌における門脈浸潤の診断と予後予測に関する研究

(A study of the diagnosis for portal venous invasion and the prognostic prediction of pancreatic head cancer)

本研究は、切除先行の膵癌症例の予後規定因子を抽出し、予後不良が予測される症例に適切な治療を提供し膵癌症例の生存率向上を図ることを目的とした。研究の結果得られた予後規定因子のうち、病理学的門脈浸潤を術前の CT 画像で正確に診断する方法について検討し、正確な門脈浸潤の診断は困難であったが、腫瘍が門脈に及ぼす形態学的変化の程度により膵癌症例の予後を一定程度予測できることが示され、適切な治療法の選択に寄与することが期待された。

学位論文内容の口頭発表後、副査の秋田弘俊教授より、門脈浸潤を有する症例が予後不良であった理由について質問があり、申請者は、検討の結果から門脈浸潤を呈する腫瘍の生物学的悪性度が高いことが予後に影響していると回答した。続いて、副査の本間明宏准教授より、検討症例における門脈合併切除の基準について質問があり、申請者は、わずかにでも腫瘍が門脈と接しているものは浸潤陽性と判定して合併切除を行ったと回答した。副査の平野聡教授から、年代により異なる CT 機種の影響について質問があった。これに対しては、影響は否定できず、設定した診断基準について現在の CT 機種での再評価が必要と回答した。最後に、主査の神山俊哉准教授から、予後規定因子の一つであった病理学的リンパ節転移の検討について質問があり、申請者は、他の研究結果から術前のリンパ節転移診断は困難であり、患者選択には適さないと回答した。

いずれの研究内容に対する質問に対しても、申請者はその主旨を的確に理解し、文献的考察を混じえて適切に回答した。また、今後の課題や展望についても、逐次的に解決すべき問題を明確に挙げ、研究結果の応用について自らの考えを示すことができた。

審査員一同はこれらの成果を高く評価し、大学院課程における研鑽や取得単位なども併せ、申請者が博士 (医学) の学位を授与されるのに十分な資格を有すると判定した。